

11/19 (日) 片岡コミュニティ文化祭

18日(土)からの2日間、片岡公民館で、「片岡地区コミュニティ文化祭」が開催されました。このお祭りは、片岡地区の芸術文化振興や地域の交流を目的として開催されており、今年で38回目を迎えます。

子どもたちや自主講座生などによる絵画、書道などの作品が多数展示されたほか、コミュニティホールでは、小・中学生による合唱などの発表が行われました。また、やきそばやわたあめなどの出店、もちつきパフォーマンスも行われ、訪れた方たちを楽しませました。



11/19 (日) 受験生応援企画

矢板公民館で、受験生応援企画が開催されました。第1部では、縁起がよく栄養バランスも整った「合格“勉”当づくり」が行われ、参加者たちは食材の効能を学びながら、心を込めてお弁当を作りました。

第2部では、(株)ベネッセコーポレーションから高校入試情報分析、受験対策の専門家を講師に迎え、「高校入試情報説明会」が行われました。高校入試制度の最新情報や受験勉強の効果的な進め方などの話があり、参加した親子たちは真剣に耳を傾けていました。



11/25 (土) 食事の大切さを学ぶ

エコモデルハウスで、自転車と栄養をテーマにした講座「しょくじではしる」が開催されました。これは、自転車を趣味とする方に運動における食事の重要性について考えてもらう機会をつくらうと、公認スポーツ栄養士の大津智仁さんを講師に迎え、開催されたものです。

レースで勝つことを意識した具体的な内容が話されたほか、栄養と携帯性に優れた「おにぎらず」の調理・試食も行われ、参加者からは「簡単だったので、次に出掛けるときに作ってみたいと思う」との感想がありました。



11/30 (木) きれいな川を未来に

河川愛護ポスターコンクールで会長賞に輝いた、矢板東高校附属中学校3年の相馬爽人さんが市長を表敬訪問しました。このコンクールは、河川愛護意識の普及・啓発活動の一環として県道路河川愛護連合会が毎年開いているもので、県内小中高生から1,251点の応募があったなか、知事賞に次ぐ会長賞を受賞しました。

市長からは「ポスターに描かれているような、アユが元気に泳げるきれいな川を未来に残せるよう、これからも啓発活動に協力してほしい」と話がありました。



矢板の冬の風物詩・イルミネーション点灯中!

12月1日(金)に、矢板駅前イルミネーションの点灯式が行われました。高さ15mのヒマラヤ杉を中心に約30,000個のLEDが灯った後、すみれ幼稚園児たちによる合唱とハンドベル演奏が行われ、訪れた方たちは耳を澄ませて聴き入っている様子でした。

2日(土)には、片岡駅西口でも点灯式が行われ、約10,000個のLEDが駅前を彩りました。キャンドルナイト、ミニコンサート、豚汁・コーヒーの無料配布が行われたほか、子どもたちにはお菓子のプレゼントもあり、一早いクリスマスムードを満喫していました。



12/3 (日) 塩田ダムで自転車イベント

塩田ダムで、自転車イベント「第3回 YAITA カップ」が開催されました。このイベントは、地域おこし協力隊の長島さんとチャリプロ連携パートナーのじてんしゃ屋フレッシュ 藤田さんが共催しているもので、他の協力隊員である神崎さん・高橋さんとともに9月からコース整備を行い、今回の開催に至りました。

当日は、周回コースを使った「タイムトライアル」と1周をくじ引きで引いたタイムで走る「タイムフィット」が実施され、成績優秀者の表彰と抽選会が行われました。



12/3 (日) 障がい者に理解を

文化会館小ホールで、「障がい者週間のつどい」が行われました。これは、「障害者週間」にあわせ、障がい者への理解と意識啓発を目的に開催されたものです。

栃木県車いすバスケットボール連盟の佐々木清美会長による講話では、自身の障がいとの向き合い方についてや障がいを持つ方との接し方で気を付けるべきことなどが話されました。また、参加者たちは、アイマスクを付けての歩行・食事、車いすの試乗・介助などを体験し、障がいへの理解を深める機会となりました。



12/3 (日) 塩谷地区駅伝競走大会

塩谷地区の2市2町9区間を駆け抜ける「第60回塩谷地区駅伝競走大会」が行われました。矢板市からは代表2チームが出場し、Aチームは3位、Bチームは8位で、総合3位となりました。中でも、力走を見せた7区・森隆人選手（那須拓陽高校）、8区・大澤瑠海選手（矢板中学校）が区間賞を獲得したほか、横塚良平選手が10カ年出場、山崎修二選手が15カ年出場表彰を受けました。当日は、沿道に駆けつけた皆さんから選手たちにあたたかい声援が送られました。



12/6 (水) 市民の安心・安全を守る

市内で、矢板地区防犯協会による「防犯・防火診断」が実施されました。この取り組みは、犯罪の多発する年末や火災の発生が多い季節を迎えたことから、安心・安全なまちづくりを目指して、市・矢板警察署・市消防団が協力し、市内各所の安全確認や市民への意識啓発を行っているものです。当日は、市役所で出発式を行った後、市長・警察署長・消防団長たちは、市役所～矢板駅を徒歩で巡回し、危険箇所の確認やパトロールなどを行いました。



12/9 (土) とびだせ どうぶつの森

塩田ダム周辺で、環境文化都市やいた創造会議主催の野鳥・生き物観察会「とびだせ どうぶつの森」が開催され、市内外から親子など25人が参加しました。当日は宇都宮大学探鳥会の大学生がリーダーとなり、イノシシの痕跡や越冬のため飛来している水鳥などを探し、ベニマシコなど希少種の野鳥も見ることができました。その後は、フクロウの住み環境づくりに取り組む里山林で生態系について学んだほか、ハンモックを掛けて遊びながら、自然の豊かさを体感しました。



▲1月20日(土)には、川崎城跡公園周辺に場所を移して、2回目を開催予定です。詳しくは、14ページをご覧ください。

12/11 (月) 新ご当地カレーを作ろう

商工会主催の「新カレー開発プロジェクト」が始動しました。これは、「あっぷるカレー」販売10周年・市制施行60周年にあたり、新たなご当地カレーを作ろうと実施されるもので、当日は矢板高校栄養食物科の生徒や市内飲食業者が参加し、簡単にできる本格カレー作りの実演と試食、スパイスに関する講義などが行われました。今後は、今回講師を務めたカレー研究家のスパイシー丸山さんをアドバイザーに、矢板高校生と協力して矢板ならではの特色ある新たなカレーの開発を目指します。



▲アドバイザーのスパイシー丸山さんに加え、ギュウゾウさんも監修として携わる予定。9月までに新メニューを完成させ、11月の市制施行にあわせて販売を目指す。

12/11 (月) 栃木県統計協会表彰

県総合文化センターで開催された「県統計大会」において、渡邊剛さんが「県統計協会名誉会長表彰」を受賞しました。渡邊さんは、平成21年から、2度の国勢調査をはじめ各種統計調査に従事してきた功績がたたえられ、今回の受賞となりました。市内で開かれた祝賀会では市長から表彰状が手渡され、渡邊さんからは「10年ほど前に市外から越してきて、統計調査員となった。市内を歩く中で、矢板のよさも知ることができ、よい経験となった」との感想がありました。



12/13 (水) 福祉について考えよう

文化会館大ホールで、「第12回矢板市福祉のつどい」が開催されました。これは、福祉をもっと身近なものと感じ、考えてもらうことを目的に行われているものです。当日は、たかはら学園和太鼓クラブによる演奏や日ごろボランティアや慈善活動などを行っている方への表彰が行われました。その後、「パニック症とともに歩んできた10年間」と題し講演した女優の大場久美子さんは、自身の体験から「発症した人をひとりにさせないために、病気への理解と偏見のない社会づくりが大切」と話してくれました。



12/15 (金) 車いすで社会貢献

市役所で、(株)アルプス技研による「車いすの寄贈式」が行われました。今年創業50周年を迎える(株)アルプス技研では、社会貢献の一環として、拠点のある自治体に計300台の車いすを寄贈する予定です。同社の「ものづくりセンター」が片岡にあることから、10台の車いすを市に寄贈していただきました。車いすは市施設をはじめ、市内福祉施設6カ所に設置されました。横山センター室長からは「創業50周年の感謝を込めた。活用してもらえるとうれしい」とのお話がありました。



▲寄贈を受けた車いすを設置した市施設は、下記の3カ所です。
・山の駅たかはら
・勤労青少年ホーム
・農業者トレーニングセンター

12/17 (日) オーナーのそば打ち体験

市内で、蕎友蕎楽の会主催の「そばオーナー制度」が開催されました。これは、農業体験に興味を持つ方を対象に、主催の皆さんが講師となって、そばの種まきから収穫、そば打ち体験までを行っているものです。当日は、市内外から参加した29人がそば打ちを体験し、昼食では、講師のそばをはじめ、だんご汁や天ぷらを堪能しました。小山市から参加した夫妻は、「そば打ちは初めてだったが、楽しかった。また、地元食材たっぷりの昼食もおいしかった」と感想を話してくれました。

